

# 記述完成

## III

はじめに――

本書は、小学生の記述力、ひいては国語力を伸ばすために書かれたものです。

記述力をつけるためには、書く「こつ」を習得し、トレーニングを重ねることが必要です。「芸術は模倣から始まる」という言葉があるように、正しく美しい日本語を書くためには、お手本となる文（文章）を筆写することから始め、文を作る上でのさまざまなきまりを学びつつ、自分なりの文を書いていく訓練をしていかなければなりません。

本書では、トレーニングAで、日本語の文を構築するための基礎訓練を行い、トレーニングBで、読解をまじえながら自らが文を作り、書く訓練を行います。トレーニングBでは、すぐれた作家の名文を数多くのおせており、そうした文章にふれることも、記述の上達につながりますので、じっくりと読みこんでから問題にあたってください。

何事も積み重ねが大切です。一步一步、着実に訓練を重ねていきましょう。

第 1 課

(学習日 月 日)

■ トレーニング A ■

一、次のことばを使って短文を作りなさい。

① よもや


② うろたえる (形を変えてもよい)


二、次のことばを意味が通るようにならばかえて文を作りなさい。(文末に「。」をつけること。)

① 終わらない 調子では いつまで その たっても


② 助っ人を しのぐ 急場を 呼ぶ ために


③ 苦しいで 言えば 苦しいなら そう いい


## ■ トレーニングB ■

### ポイント

★論説・説明文における記述問題では、文中のことばを用いることが前提である場合が多く、最適の部分を見つけ、過不足のない内容で、くるいのない日本語を書くことが求められる。

★抽象的にまとめている内容が求められていることが多く、そういう部分を見つめる際、「つまり」「要するに」などの接続語はひとつの目安となる。

### 例題

日本語でノーを何というのか、と外国人に問われて私が返事に窮するのは、このように日本語には「ノー」にそっくり対応する言葉がないからである。日本語では、ある場合は「いいえ」といい、ある場合は「ない」ともいい、あるときは「いえ」「いや」ともいい、またあるときは「ううん」などという。「ノー」というきわめて単純明快な言葉に、こうもたくさんの訳語がつくというのは、外国人には理解を越えるようである。

このことは何を意味するのだろう。おそらく、きっぱりと否定することを日本人は好まない、ということ語っているのはあるまいか。ことに会話の場合、はっきりと否定することは相手の感情を害するのではないかと日本人はそれを心配するのである。つまり、相手の配慮から、時と場合にに応じてニュア

スを異にする否定の表現をえらび、気分をこわすまいと努力するのだ。

※窮する……困る。

※配慮……気配り。

※ニュアンス……意味などのわずかなちがい。

(森本哲郎『日本語表と裏』)

(問い) ——線「ノー」というきわめて単純明快な言葉に、こ  
うもたくさんの訳語がつく」のは、なぜですか。三十字  
以内にまとめて答えなさい。

(解答例) 相手の配慮から、時と場合に応じた否定の表現をえ  
らぶから。

(解説) まず、直前の例によって「場合によって言い方が違う  
から」という内容の見当をつけ、次の段落中の「つまり」  
の後に着目する。字数制限があるので「ニュアンスを異  
にする」という修飾語は省いてある。  
なお、「きっぱりと否定することを日本人は好まないか  
ら」という内容では、「相手の配慮」の説明をしているに  
すぎず、「ノー」に対する訳語が多いのはなぜか」という問  
いに対する解答として不十分である。

一、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

台所の戸棚とだなの引出しに、割りばしわが何本ストックされていますか？ 出前をとったときのあまりなどもまじっているでしょう。外食するとき使うのも計算に入れて、一年で二〇〇本ぐらい割りばしを使っているというデータがあります。

5

環境問題が大きな話題になったころ、熱帯林の破壊はかいに心を痛め、なにか行動したいと思った都市住民が目にとめたものは、割りばしと牛乳パックでした。どちらも木を材料にしている、使い捨てられています。「使用をやめたり回収すると、森林の保護に役立つ」と友人に呼びかけるとけっこう反響はんきやうがあったので、一九九〇年ごろ、一時大きな市民運動になり、はしを持ち歩く人や、塗りばしぬりに替える食堂などがでてきました。

10

評論するだけでなく、行動するのはよいことです。しかし、森林の現状や割りばしの作られ方などをほとんど知らないまま運動がスタートしてしまったので、仕事に従事している人とのあいだに大きな溝ができてしまいました。

15

私は割りばし発祥はっしやうの地、奈良県の吉野よしので生まれました。一四世紀には南朝がおかれるなど、歴史にたびたび登場する山あいの町です。私は割りばしがどんな木から、どのように作られるかを知っているので、「割りばしの使い捨てをやめると家が一万戸建つ」などという人が現れたのにはびっくりしました。

20

(森住明弘『環境とつきあう50話』)

問い —— 線「熱帯林の破壊に心を痛め、なにか行動したいと思った都市住民が目にとめたものは、割りばしと牛乳パックでした」とありますが、その理由を、文中のことばを使って二十五字以内で答えなさい。


二、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

木製の割りばしわは二つの方法で作られます。一つは、丸い木から四角い柱などをとったあとに、背板せいたというかまぼこ型の端材はざいがのこります。私が小学生のころには、学校で使われていたまきストーブの燃料になったり、割りばしになったりしていました。廃材はいざいをうまく利用しているわけです。

5

もう一つは、丸い木をかつらむきにしてうすい板にし、

それから割りばしを作っていきます。お刺身さしみを買うとダイコンを細長く切ったけんが入っています。包丁でりんごの皮をむくようにうすくはいで切って板状のダイコンを作り、トントンと細長く切ったものです。割りばしのばあいには、機械でかつらむきします。

これでは廃材利用とはいえないのではないかと、心配になります。北海道の和寒町わっさむを訪ねてみましょう。ここでは、シナノキ、シラカバ、ハンノキなど天然の広葉樹を利用しています。シナノキのばあい、丸太一本をすべて割りばしにするのではなく、太さによって使い分けています。枝に近い一四cm以下はパルプ用のチップ（木材を細かく砕いたもの）、一四〜二八cmは割りばし、それ以上は折り箱用の※経木きょうぎや家具材、合板になるそうです。利益を増やすため、一本の木をみごとに利用しています。

割りばし不利用運動が大きくなったころ、和寒町の生産者が「製紙業界に※寄生して、生かしてもらっています」とテレビ番組でいっていました。木材のごく一部を利用するだけなので、自力で搬出作業はんしゅつを担う経済力けいざいはありません。都市住民に怒るのでなく、「寄生」といったのが印象的でした。寄生は、ときには※宿主の命をうばいます。しかし和寒町のばあい寄生ではなく、一方的に利はえるが、宿主にはあまり迷惑めいわくでない「片利共生へんり」です。この言葉がまだ市民のものになっていないので、寄生といったのだと思います。

30

25

20

15

10

※経木……木材を紙のようにうすくけずったもの。

※寄生……自分の力で生きられず、他にたよって生きること。

※宿主……寄生するものがたよる相手のこと。

（森住明弘『環境とつきあう50話』）

問い——線「これでは廃材利用とはいえないのではないかと、心配になります」とありますが、筆者は「廃材利用といえる」と考えています。その理由を、文中のことばを使って二十字以内で答えなさい。


第2課

(学習日 月 日)

■ トレーニングA ■

一、次のことばを使って短文を作りなさい。

① あたかも


② そつがない


二、次のことばを意味が通るようにならばかえて文を作りなさい。(文末に「。」をつけること。)

① 結論を ばかりに 失敗を 急いだ まねいた


② 意志を 持って ついてくる 強い 臨めば 結果は


③ 演技に 舌を 彼の だれもが すばらしい 卷いた


一、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

先日、私は電車のなかで、若い女性が大学生風の若者に突然突き飛ばされて床にたたきつけられるというショッキングな「事件」を目撃しました。座席の端に座っていた若者のメール作業を、かたわらに後ろ向きで立っていた女性のかばんが邪魔したことが原因のようでした。床から起きあがった女性はものすごい表情で「犯人」をにらみつけていました。私がショックを受けたのは、その間二人の間に、ひとことの言葉も交わされなかったことです。若者が「ちよっとかばんが……」と一言声をかければ、「あらごめんなさい」ですむことです。また突然突き飛ばされた女性が、一言の抗議の言葉も発しないというのも、考えてみればきわめて不自然で異様なことです。私も含め見ていた周囲からも、若者をたしなめる言葉もなく一件落着きというわけですね。無意識のうちに関わり合いを避け「観客」に徹した私自身へのいらだちもあり、実に不愉快な「事件」でした。 15

(笠原良郎『読書するということ』)

10

問い —— 線「実に不愉快な『事件』でした」とありますが、

筆者が不愉快になった理由を、文中のことばを使い、二つの点にまとめて答えなさい。

二、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

最近、子どもや若者の言葉の力が落ちてきているのではないかという声をよく耳にします。子どもや若者がすぐに「キレ」たり「ムカツ」いたりするのも、このことと無関係ではないのかもしれませんが。

人が生きていくうえでとても重要な言葉の力を、人はどのように獲得していくのでしょうか。基本的には、家族・地域の人たち・友達・年長者など周囲の人たちとのコミュ

ニケーションのなかで言葉を身につけていきます。学校は意図的・計画的に言葉の力を伸ばすシステムとも言えます。

しかし、言葉を獲得するうえで最も効果的な方法は読書

です。幼いとき何十回も同じ絵本を読んでもらったり、字が読めるようになるのとワクワク、ドキドキしながら物語を楽しんだり、未知の世界にふれて感動したり……そういう本との出会いのなかで、人は知らず知らずのうちに言葉自身につけていきます。言葉が豊かになれば、思考が深まり、内面も豊かになります。

最近、核家族化や少子化が進み、また地域との関係がうすれていくなかで、コミュニケーションを通しての言葉の獲得が難しくなってきました。そういう意味で、読書の大切さが増えます。大きく変わっているといえます。また、世の中のIT化が進めば進むほど、言葉の世界や読書の重要性が増すという主張も数多くなされています。

(中略)

若い人たちには本の世界に遊ぶ楽しみを知り、その楽しみを通して、大いに言葉の力を鍛えてほしいと思います。本を読むことの意義や効用を挙げればきりがありません。が、若い人たちが言葉を豊かにするという一点だけでも読書の大切さを理解して、読書に親しんでほしいと願っています。

(笠原良郎『読書するということ』)

問い 筆者は、読書が大切である根本的な理由を、どのように考えていますか。言葉を身につけることとの関係をふまえた上で、文中のことばを使い、四十字以内で答えなさい。
